

# 姫路市立 大塩公民館だより

2010年 4月21日発行 NO.280

発行責任者 伊藤 紘一郎

電話・FAX(079)254-3178

〔公民館は月曜日休館〕

姫路市大塩町汐咲一丁目39番地

## 地域講座

『大塩の塩田について語る会』

日時 5月28日(金)午後1時30分

場所 ふれあい広場「汐の里」

発起人 有本 逸男さん

平成20年度から始まりました、塩田について語る会を今年も有本さんにシリーズで続けていただきます。今回は、日本の製塩の歴史、世界の塩についてのお話など、広い視野から塩を捉え、大塩の塩田との繋がりを皆さんと一緒に語る会となりそうです。

## 懐かしい流行歌を

古き良き昭和の映像を見ながら楽しむ会

『映像で綴る 昭和の流行歌』第2回

日時 5月25日(火)午後1時30分

場所 ふれあい広場「汐の里」

お世話と解説 近藤 喜代一さん

3月に行われた第1回は大好評。出席者皆で懐かしい歌を口ずさみ、昭和初期の映像を楽しみました。第2回は昭和9年～12年、東海林太郎、藤山一郎、淡谷のり子、ディック・ミネなどです。

## 教養講座 特別講演

大塩が生んだ世界の『清風』

日時 5月15日(土)午後1時30分

場所 ふれあい広場「汐の里」

講師 前崎 信也先生 立命館大学

(グローバル・イノベーション研究機構研究員)

## 大発見!! 郷土の偉人と大花瓶

日本陶芸界の第一人者三代清風与平を研究しておられる、立命館大学の前崎信也先生に来ていただき、大塩出身の偉人と彼の作品・公民館所蔵の大花瓶について、発掘していただきたいきさつ等もふくめ講演をお願いしました。



## 大塩町公民館所蔵の三代清風与平作《水彩磁鳳凰紋花瓶》について(前崎先生の解説文です)

大塩町公民館で長年保管されてきた白地に繊細な黒い線で鳳凰と桐の文様が描かれた大花瓶。その箱書には「水彩磁鳳凰紋花瓶 先考<sup>せんこう</sup>晟山作 襲世<sup>せいぜん</sup>四代清風謹識」とある。先考とは亡き父のこと、晟山とは三代清風与平の別名であり、その子にあたる四代清風与平による箱書であることから、この花瓶が明治時代に日本陶芸界の第一人者として活躍した三代清風与平の作であると分かる。

重要無形文化財保持者、いわゆる「人間国宝」は昭和30年に端を発する。しかし、戦前にその前身にあたる「皇室技芸員」と呼ばれた芸術家達がいたことを知る人は少ない。総勢79名の皇室技芸員には高村光雲、横山大観、梅原龍三郎など錚々たる面々が名を連ねるが、三代清風与平はその中で初の陶芸家として任命された人物である。

本名は岡田平橘。当時の播磨国印南郡大塩村、つまり現在の大塩町出身で、同じ大塩町出身として知られる岡田播陽の叔父にあたる。同年代の子供とは違い、幼少の頃から読書を好み、暇あれば海岸を逍遥し砂浜に絵を描くのを楽しんだとの逸話が知られる。13歳の時に文人画で有名な大阪の田能村小虎の門に入り、その後、京都清水五条坂の清風家に養子となった。三代清風与平を襲名してからは、国内外の展覧会・博覧会で入選を重ね、42歳の若さで皇室技芸員に任命された。その翌年にはこれも陶芸家としては初の緑綬褒章を受章し、名実ともに明治期を代表する美術家となったのである。

現存する作品数が少ないことがこの作家の特徴だが、大塩町公民館の花瓶のような大型の作品は特に希少である。また、作家の出身地に残ることや、皇室との繋がりを感じさせる鳳凰と桐という文様も興味深く、三代清風与平の名品に数えられるべき逸品であろう。